母親の離乳に対する感情と離乳行動(2)

—離乳感情尺度の作成—

○杉山 明子¹ 松本 菜智² 井上 果子³

(¹長谷川心理相談室 ²相模原市立青少年相談センター ³横浜国立大学)

キーワード：離乳行動 離乳感情尺度 因子分析

Mother's emotion and behavior to weaning(2)

Akiko SUGIYAMA¹ Nachi MATSUMOTO² Kako INOUE³

(¹Hasegawa Counseling Office, ²Sagamihara City Educational Counseling Center, ³Yokohama National University)

Key words : weaning pattern, emotion to weaning index ,factor analysis.

【問題と目的】わが国では、1970年代には母乳育児率が15%まで低下したが、健康面だけでなく、母子の早期の関係性という点からも母乳育児が推奨、支持されるようになった(堺,2000)。さらに、離乳についても、授乳の心理学的側面が強調されるにつれ、親主体で母乳育児をやめる「断乳」に対し、子どもが自然に母親の乳から離れる「卒乳」(南部ら,1996)という言葉が用いられるようになった。しかし、実際に育児を行う母親自身の離乳に対する感情を取り上げた研究は少なく、松永(2002)の断乳ケアを訪れた母親の参与観察を用いた研究、坂上(2003)の母親への面接調査による研究など、わずかに見られるのみである。杉山ら(2009)は、離乳が第二の母子分離に当たるとし、離乳行動に影響を及ぼす母親の心理的背景要因を探るために、多くの母子に接する助産師への半構造化面接を行った。結果から、ここ10年の母親像の変化として、子どもの感情や状態よりも自分のこだわりやペースを優先する母親像が窺え、育児経験の不足、母親自身の共感性の低下や不安耐性の低さが示唆された。また困難や他者との交流を回避しようとする母親の心理傾向も想定された。さらに離乳については、母乳育児が少数派であった時代の自身の母親との意見の食い違いや葛藤が観察されており、具体的な助言や手助けを得られないだけでなく、母親との葛藤を賦活させる可能性も考えられた。このように、離乳は育児中の母親にとって大きな関心とストレスの対象であり、離乳の際に様々な感情、情緒を体験していることが示唆された。そこで本研究では、母親の離乳に対する感情(以下離乳感情)を把握するために、離乳感情尺度を作成することを目的とする。

【方法】○調査対象：神奈川県、東京都、静岡県、新潟県内に在住する4ヶ月から5歳までの子どもをもつ母親350名。その結果322部が回収された。回答率は92%であった。○調査期間：2005年5月18日～6月6日。○方法：個別記入形式による質問紙調査で実施された。○調査内容：坂上(2003)、松永(2003)の母親への面接調査で述べられた発言、杉山ら(2009)の助産師への面接で述べられた発言などを参考に、独自に作成した16項目で、5件法で回答を求めた。

【結果】離乳感情に関する項目16項目について因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行った結果、「離乳不安」「離乳未練」「離乳肯定」の3因子11項目を採用し、離乳感情尺度とした(表参照)。内的整合性を確認するため、下位尺度ごとにCronbachの α 係数を算出し、十分な値が得られた。「離乳不安」は、離乳を決定すること自体への不安だけでなく、離乳に伴う子どもへの罪悪感や思うようにコントロールできないことの苛立ちが表現されていた。「離乳未練」は、授乳を終えることへの躊躇いと、離乳だけでなく母性や子どもとの繋がりをも喪失するような寂しさが表現されていた。「離乳肯定」は、離乳が母子共に成長している証と感じ、肯定的に捉えている情緒が表現されていた。

【考察】結果から、「離乳不安」に表された自身の判断に確信が

表 離乳感情尺度			
	F1	F2	F3
離乳不安			
自分の判断は、まちがっているかもしれない	.743	-.154	.095
授乳を終わらせてしまうのが、	.679	.152	-.076
子どもに申し訳ない気がする			
今やめてもだいじょうぶだろうか	.655	-.021	.077
もう離乳させるなんて、こどもはまだ	.570	.190	-.019
欲しがっているのにかわいそう			
離乳がうまくいかずイライラする	.488	-.101	-.002
離乳未練			
母親にしかできないことが終わるのは、かなしい	-.198	.961	.113
できればもう少し長く与え続けたい	.235	.417	-.157
授乳をやめて、私がこの子にそれほど	.283	.407	.038
必要とされなくなってしまうのがさびしい			
離乳肯定			
だんだん成長していくんだと思うとうれしい	.068	-.126	.569
母親以外の人と接する時間もこれから必要だろう	-.014	.132	.562
もうすぐ母としての最初の仕事をやりとげる感じ	.083	.102	.374
因子間相関			
	F2	.551	
	F3	-.162	-.122
	α 係数	.761	.665
			.474

持てない不安や苛立ちからは、母親自身の育児経験不足や不安耐性の低さだけでなく、周囲の理解の有無が影響を与えている可能性も示唆された。これは、離乳に関して自身の母親との葛藤が賦活される可能性を指摘した杉山ら(2009)の見解を支持するものと考えられる。「離乳未練」は、授乳＝母親というイメージの強さと、子どもの成長や自立を率直に喜べない母親の傾向が窺えた。こうした感情が増大した場合には、将来的に過保護・過干渉や子どもへのしがみつきの生じる可能性が示唆される。「離乳肯定」では、「離乳不安」とは対照的に、子どもの成長を喜ぶと同時に、自身の母親としての肯定感、満足感が表現されており、成熟した母親役割、安定した親子関係の基礎に繋がると考えられる。また、今回の結果からは、育児放棄に繋がるような放任的・無関心さを示す因子は見出せなかった。今後、母親の心理的背景要因や環境要因との関連を検討することで、離乳行動と母親の感情の全体像を詳細に把握していきたいと考える。

【引用文献】 橋本武雄 2002 母乳指導のバラツキ・誤解チェックリスト～主に離乳準備食と断乳の誤解から～ ペリネイタルケア 21(11),30-34.

松永芳子 2002 断乳を受け入れるまでの母親のゆらぎ 日本助産師学会誌 16(1),48-57.

南部春生ら 1996 断乳と卒乳「自然卒乳の提唱」周産期医学 26,525-530.

坂上裕子 2003 断乳をめぐる母親の内的経験—断乳児期の決定に関与した要因に注目して— 質的心理学研究 2(2),124-138.

堺武男 2000 母乳育児とBFHI 橋本武夫(監修) もっと知りたい母乳育児 メディカ出版 13(12) 65-71.

杉山明子ら 2009 母親の離乳に対する感情と離乳行動(1) 日本心理学会第73回大会発表論文集 P.1222